

## 愛玩動物の適正飼養管理について考える

Japan Pet Care Association

～人もペットも元気で心豊かに暮らすには～

この度、平成21年5月30日(土)、ベルサール九段イベントホール(東京都千代田区)にて開催した、本協会設立30周年記念シンポジウム「愛玩動物の適正飼養管理について考える ～人もペットも元気で心豊かに暮らすには～」の内容を『日本愛玩動物協会設立30周年記念シンポジウム記録集』として刊行いたしました。

広報誌『愛玩動物』でも、1月号から4回にわたり、その内容をご紹介します。



## ◆本誌(平成22年7月号(214号))掲載

・鳥の適正飼養管理/ケン・マッコート

## ◆過去の掲載

・設立30周年記念シンポジウムの開催にあたって/

公益社団法人日本愛玩動物協会会長 小川 益男

・愛玩動物の適正飼養管理とは/山崎 恵子

・犬の適正飼養管理/水越 美奈…1月号(211号)

・猫の適正飼養管理/ジャクリーヌ・ムネラ…3月号(212号)

・小動物の適正飼養管理/斉藤 久美子…5月号(213号)



## 鳥の適正飼養管理

## ケン・マッコート

オハイオ州ドイルズタウンにあるフォー・ポーズというトレーニング・センターを所有・経営。妻で獣医師のマリリンとともに、犬9頭、猫8頭、大型の鳥6羽、フィンチ数羽、ラマ3頭、ヤギ1頭、ポニー1頭、ロバ1頭と暮らす。動物の問題行動を専門とする。ほとんどのクライアント(依頼者)および動物は、獣医師や他のクライアントからの紹介で訪ねる。1986年より動物のトレーニングをフルタイムで行い、1対1の方式を取り入れている。現在は、犬、猫、鳥、ラマのトレーニングを行う。

自宅には現在タイハウム1羽、コンゴヨウム3羽、ズグロシロハラインコ1羽、オカメインコ1羽、キンカチョウの1コロニー(群れ)がいる。それに加え、九官鳥2羽、アフリカンクロウ1羽、シロビタイムジウム(ハシアオバタン)1羽、キバタン1羽、アオボウシインコ3羽、キエリボウシインコ1羽、他のオカメインコ属数羽、ナナイロメキシコインコ1羽、コガネメキシコインコ1羽の飼養およびトレーニングの経験をもつ。

自身のビジネス以外に、デルタ協会のペット・パートナー・プログラムの認定エバリュエーターおよびエバリュエーターのインストラクターを務める。病院、老人ホーム、その他のさまざまな施設等の訪問活動を行う動物とハンドラーのチームを評価および認定するだけでなく、ペット・パートナー・スキル・アンド・アプティチュード・テスト(技能と適性の検査)を開発し、米国内外でそのテストの指導を行う。ちなみにペット・パートナー・プログラムは鳥も認定している。

アクロン大学(オハイオ州)、コロンバス州立大学、オハイオ州立大学獣医学部、ミッドウエスト・ヴェテリナリー・コンフェランス(米国中西部獣医学大会)、ソサエティー・オブ・アンスロゾオロジスト(人と動物の関係学会)、デルタ協会、タフツ大学動物博覧会、その他多くの動物関連組織で動物行動学を講義。2004年からは来日し、動物の行動について理解を深める方法をトレーナーに指導。また、インディアナ州バトルグラウンドにあるオオカミの行動を研究するウルフ・パークという研究所にて、プレゼンテーションや研究プロジェクトに採用され、長年そこでオオカミのトレーニングを行う。

今回の設立30周年記念シンポジウムは、ジャクリーヌ・ムネラさんと私にとって、動物愛好家の皆さんと出会うことができる、とても楽しく素晴らしい機会となりました。私が講演しました内容に関しまして、いくつかのポイントを詳しく述べ、わかりやすいものとするため、次のように少しばかり補足したいと思います。

## 1. 騒音と音

飼い主を困らせる鳥の問題行動の1つとしてよく挙げられるのが、不快な音を立てることです。これは特に、中型から大型のオウムについていえることです。このような音には、金切り声や叫び声から、飼い主が繰り返してほしくないと思う言葉や表現を繰り返すなどがあります。

鳥が好ましくない音を立てるのはたいていの場合、大好きな人の

反応を期待しているからです。交渉したり(「そんなことをするのは止めてちょうだい」と言うなど)、水を浴びせたり、ケージをゆすったりするお仕置き(どちらもするべきではありません!)などのさまざまな手段でこうした行動を止めさせようとして鳥に近づいても、ほとんどの鳥は、大好きな人の注意をひくことができたと考えてでしょう。





私が今回のシンポジウムで取り上げた問題行動を矯正する方法は、鳥が不快な音を立てるのを止めたらご褒美を与える(問題行動がなくなればご褒美を与える)、あるいは、鳥が好ましい音を立てたらご褒美を与える(どんな行動が不適切なのかを教える)、の2つです。問題行動がなくなったらご褒美を与えるということに関しては、連鎖行動を生み出す恐れがあります。つまり、鳥が不快な音を立て、次にそれを止めることでご褒美をねだろうとすることにつながりかねません。しかも、鳥はこの連鎖行動を何度も繰り返すのです。したがって、トレーナーには、連鎖行動の中に「沈黙」の時間を構築していくことが求められます。鳥が鳴き止む度に、ご褒美を与えるまでの時間を少しずつ長くしていくのです。一方、鳥が好ましい音を立てるようにトレーニングする第2の方法では、トレーナーは、ちょうどいいタイミングで(要求したときなどに)鳥が好ましい音を発するようにさせることができなければなりません。あなたが望んでいることを鳥に理解させるために、事前のトレーニングが必要な場合がままあります。私は、問題行動をなくす方法と、どんな行動が不適切なのかを教えていく方法の両方を用います。要するに、鳥が問題行動を止めたときと、好ましい鳴き声を発したときにご褒美を与えているのです。

## 2. 病気の可能性を示す兆候

鳥の健康を観察するために最も簡単ですぐにできる方法の1つが、インプット(餌と水の摂取)とアウトプット(排泄)をチェックすることです。どちらか一方に異常が見られるようであれば、その鳥には健康上の問題があると考えられます。また、インプットにもアウトプットにも異常が見られるようであれば、多くの場合、それはより深刻な問題の兆候であるといえるでしょう。私のペットにそう



した状態が見られた場合には、緊急事態と見なしています。

鳥の「排泄物」は多くの成分からなりますが、尿と糞



ケン・マッコート氏

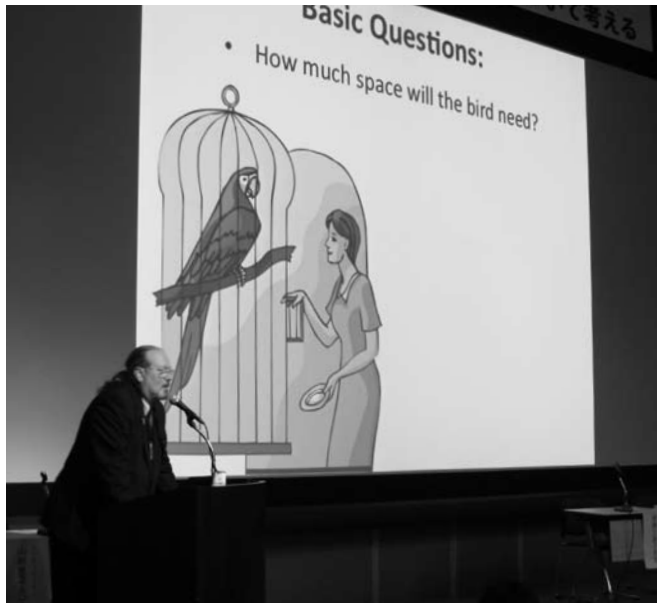
については、私は毎日観察します。鳥の尿は主に白色です。一方、糞は鳥の餌によって茶色や緑色などの色が見られます。糞は尿に含まれていますが、識別可能でなければなりません。つまり糞と尿とでは、色や濃度が異なるため、確実に見分けることができます。排泄物がスクランブルエッグのように混ざり始めたら、鳥に問題が生じている可能性があります。そこで私は、鳥が飛び回る場所やケージの下に新聞紙などを敷くようにしています。そうすることで、排泄物の状態を簡単に観察することができるので、鳥の毎日の健康状態を判断するのに役立ちます。

病気の鳥は身を隠したり、じっとしていたり、また、翼や羽根を少し広げていたりする場合があります。普段と比べて元気のない様子を見過ごさないようにし、元気がないようであれば、健康上の問題を疑いましょう。

## 3. 排泄物を飛ばす習性

すべての鳥が排泄時に、糞や尿をケージの床に落とす訳ではありません。中には、排泄物を背後にまっすぐ「発射する」鳥もいます(九官鳥、オオハシ、ワタリガラス、カラス他数種)。そのため、ケージの設計と配置について工夫を凝らさなくてはなりません。ケージの壁は、掃除しやすく、排泄物が飛び散ったりケージの外に飛び出したりしないようにする必要があります。飼い主がこの習性に合わせた適切な環境を作らなければ、衛生状態がすぐに悪化してしまいます。鳥を飼う前に、排泄行動について知っておいてください。そうすれば、後でこうした習性に驚かされるようなことはないでしょう。





講演「鳥の適正飼養管理」を行うケン・マッコート氏

#### 4. 人間の手で育てられた鳥と親鳥に育てられた鳥

ペットとして売られている鳥の多くは、飼養されているものです。飼養にもいくつかの方法がありますが、最も一般的な方法は、人間の手で育てる方法と親鳥が育てる方法です。そのどちらの方法にも、利点もあれば、潜在的な問題点もあります。

人間の手で育てる場合は、一般に、卵または孵化したての雛のうちに巣から引き離されます。通常は孵卵器などの温度管理ができる飼養器具に入れられ、飼養者の手で餌を与えられます。飼養のプロセスは非常に手間がかかるものであり、飼養者にはかなりのスキルと知識が要求されます。多くの場合、鳥は人間を突然変異した鳥か何かだと信じ、一生を通じ、鳥としての通常の社会的行動のすべてを人間に対してとります。これには求愛行動や交尾行動も含まれます。こうした鳥は一般にとても温和ですが、鳥と人間との関係を邪魔する相手に対してはテリトリーを主張し、攻撃的になる場合があります。また、人間の「連れ合い」に対して、自分へたくさん注意を向けてほしいと求める場合があります。しかし、飼い主には仕事や人間同士の付き合いがありますから、鳥の要求にすべて応えることはできないでしょう。一方で、人間の手で育てられた鳥は、相手が問題のある人間でない限り人間を本当に怖がったりはしませんので、医療ケアが簡単に行える場合がほとんどです。

鳥が雛を育てる場合は、子育ては親鳥に委ねられていますが、人間がいつもそばにいます。人間による雛のハンドリングの程度はさまざまですが、雛は人間を非脅威的な環境の一部と捉えています。多くの場合、こうした鳥には、健康診断や爪を切るなどのハンドリングに慣れさせるためにちょっとしたトレーニングが必要となります。ちなみに私は、ポジティブな方法で鳥と関わる術を知っている人間によって毎日たくさんハンドリングが行われ、かつ鳥によって育てられた雛を好みます。

#### 5. 環境エンリッチメントの一環としての採食

野鳥の大半は、餌を探し回ることに毎日多くの時間を費やしています。餌を探すのと同時に、危険を回避することにも時間を費やします。ケージの中で飼われている鳥はほぼいつでも側に餌がある状態であり、避けるべき危険があったとしても、わずかに過ぎません。

私が飼っている鳥に対しては、好物の餌を安全な鳥用のおもちゃの中に隠して、鳥にそれを探し出させるといったことをよくやります。おもちゃの中から餌を取り出すために、鳥たちに何らかの努力をしてもらいたいと考えてのことです。簡単に見つけることができる場所に餌を隠すことから始めるのがいいでしょう。いったん鳥が餌の探し方をマスターしたら、私は隠す場所を少しずつ難しくしていっています。ただし、鳥がイライラして、餌を探すことをあきらめてしまうことにはなってほしくありませんので、難しくなり過ぎないようにしています。

大型のオウムなど、鳥によっては、端を折り畳んだペーパータオルの芯のように鳥が引きちぎることのできる物の中に餌を隠します。そのほか、鳥によっては小さな段ボール箱が適していることもあります。餌を隠すのに使用する物については、鳥にとって無害であり安全であることを必ず確認してください。

隠し場所を変えることによって、鳥に新たな戦略を考えさせたり、楽しい活動を数多く創り出してやったりすることもできます。

#### 6. 手乗りのトレーニング

シンポジウムでの質疑応答の際に、出席者の方から鳥を手乗りにするにはどうすればよいのか、といった質問をいただきました。一言では答えられない質問です。私が使う方法には、多くの要素が関わってきます。

第1の要素は、鳥が、手に留まらせようとしている人に対してどの程度馴れているかということです。鳥が怖がっているようであれば、





あなたが鳥に近づくこと、ふれること、また鳥自身があなたにふれることが良いことだと鳥に思わせるような、信頼関係を構築しなければなりません。これは一般に、鳥に対する「条件付け」によって達成することができます。

非常に怖がりな鳥に対しては、手始めにケージの側を歩いてみたり、餌皿においしい餌(トリーツ)を落としてみたりすれば

よいでしょう。鳥が餌皿の側において、あなたがトリーツを落とすとすぐにそれを食べ出すようになるまで、時間をかけてこれを繰り返してください。鳥がそうした行動を見せるようになったら、今度は柄の長い計量スプーンでトリーツを与えてみましょう。鳥がトリーツを食べている間は、音や短い言葉を発して、このお楽しみと結びつけます。こうした音や言葉を「ブリッジ」、つまり「条件性強化因子」として利用し、正しい行動や最終的な行動の一部をマークすることができます。時間をかけてスプーンの柄を徐々に短く持つようにし、最後には鳥が人の指先からトリーツを食べるようにします。私の場合、大丈夫だと思えば、ハンド・フィーディング(手からの給餌)を行い、鳥がトリーツを食べる直前にブリッジである音を発します。

次のステップでは、ダボ(木材同士をつなぎ合わせるのに使用する木製の棒)などの短い棒をケージの中に置き、トリーツでおびき寄せて鳥を棒に留ませます。それができるようになったら、棒を手を持ち、鳥がそれに留まるよう促します。止まり木は、鳥が上れるように、鳥の脚より少しだけ高い位置にしてください。止まり木は絶対に動かしてはいけません。止まり木は安全だと鳥に思わせる必要があるからです。私はいつも、鳥が止まり木に上ろうと足を上げるのを待ってから、止まり木を近づけるなどの手助けをしています。鳥が止まり木に上った後は、今度は下りるように仕向けます。止まり木に上ったり下りたりする方法を鳥に学ばせることが必要です。

止まり木を差し出すと鳥が確実にそ



討論でのケン・マッコート氏



ケン・マッコート氏による「鳥の適正飼養管理」の講演の様子

れに留まるようになったら、その行動のことを「アップ」などと呼ぶことにしています。鳥が足を動かす直前に「アップ」の言葉を掛ければ、鳥はその言葉から行動を連想するようになります。鳥が言葉に反応してきちんと行動をしたときには必ずご褒美を与えてください。その行動が鳥とあなたにとっての新しい体験である場合にはなおさらです。

次に私は、止まり木を徐々に短くしていき、鳥を手にもふれそうところまで近づかせます。そして止まり木を指と平行になるように置いて、鳥が止まり木と指に留まるようにします。ほとんどの鳥は高い場所に留まるのを好むので、手首を曲げることにしています。そうすると前腕が床に向かって下がるので、鳥は手に留まり続けることになります。また、こうすることで鳥が肩へ上ろうとするのを防ぐことができます。トレーニングを始めたばかりの鳥には、留まる場所を手か止まり木だけに制限しておきましょう。

それから1本の止まり木から手へ、そして手から別の止まり木へ移動し、また手に戻るといったことを鳥にやらせています。また、鳥に手とT字スタンドを1日に何回か往復させるというトレーニングをよく行います。

特に飼い始めたばかりの鳥をトレーニングする場合や、初めての行動をトレーニングする場合は、トレーニング時間を短くしてください。鳥を混乱させたり、鳥に負担をかけ過ぎたりしないようにするために、1回につき1つの行動をトレーニングしましょう。必ず鳥が静止した物に留まるようトレーニングし、そこで居心地が良さそ

うにしているのを確認してから、止まり木と一緒に鳥を動かすようにしてください(腕を動かしたり回りを歩き回ったりします)。少しずつ信頼関係を育んでいくことが肝要です。

鳥を手乗りにするトレーニングの方法はほかにもありますが、良い方法では、決して鳥に無理強いしたり、鳥を怖がらせたりはしません。トレーニングはあなたと愛鳥にとって楽しいものであるべきなのです。

